

バイオガスサミットinおこっぺ

2009年

NPOあうるずNEWSLETTER

第5号



2月9日畜産糞尿や海洋性廃棄物で地産地消エネルギーを！



オホーツク海に面した興部町は畜産業や漁業、林業などバイオマスが豊富な町です。地産地消エネルギー目指してセミナーを開催しました。

帯広畜産大学 梅津教授
北海道開発局 河畑課長
環境施設 篠田編集長
支倉牧場 支倉博氏
名寄農業高校

司会 鈴木繁男

興部町はナチュラルチーズ工房が5カ所もあり、また水産加工も行われておりバイオマス賦存量の高い地域です。そのバイオマスからガスをとって地域で利用することができないかという検討が進められており、今回のセ

ミナーでは各方面からの提案をいただいて、検討をさらに進める契機として北海道バイオマス発見活用協議会と興部町が共同で開催いたしました。

環境バイオマス総合対策推進事業意識改革事業

昨年より農水省が行っているバイオマス振興事業のうち全国8ブロックで展開されている「意識改革事業」の

北海道ブロックの活動をNPOあうるずが受託しております。

裕町長のご挨拶

冒頭に裕興部町町長からご挨拶がありました。農業政策は50年かけて願いを成就してきた。これからエネルギーの地産地消も地道に着実に取り組んでいくとの挨拶をいただきました。



農水省大倉弘二課長補佐からバイオ燃料法についての説明

農林水産省からは大臣官房環境バイオマス政策課のバイオ燃料班 課長補佐大倉弘二氏さまから「バイオ燃料施策の説明」をいただきました。帯広・旭川でも講演していただいたのですが、大変わかりやすい語り口でバイオマスの初



community thinktank owls
北海道帯広市東二条南四丁目

【次第】

1.開会の案内司会進行／NPOあうるず
鈴木繁男

2.バイオ燃料施策についての説明農林水産省 大臣官房環境バイオマス政策課バイオ燃料班 課長補佐 大倉 弘二氏

3.基調講演

「畜産業と新しいバイオガスの活用」 帯広畜産大学教授 梅津 一孝氏

「バイオガスビレッジ構想」 北海道開発局開発調査課長 河畑俊明氏

4.事例報告

「国内バイオガスプラントの稼働状況」『環境施設』編集長 篠田淳司氏

「バイオガスと畜産業」 支倉博氏

5.パネルディスカッションコーディネーター／NPOあうるず 専務理事 菊池貞雄

6.閉会

平成21年2月9日は雪も降り、寒い一日となりました。鎌倉から来てくれた篠田編集長は昨年12月26日の旭川の大雪の日について二回目の講演です。

8日に到着したときにはみられなかった流水も出発する10日にはみることができオホーツクを感じて帰っていただけました



◆主催：北海道バイオマス発見活用協議会（事務局：NPOコミュニティシンクタンクあうるず）

興部町（地域バイオマス資源活用推進プロジェクト委員会）

◆共催：農林水産省

◆後援：北海道経済産業局、独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構、網走開発建設部、北海道網走支庁

歩から話をしてもらい、最後は現在の農林水産省の政策を教えてくださいました。

帯広畜産大学梅津教授基調講演「畜産業と新しいバイオガスの活用」

バイオマスって何だろう？という最初の疑問から北海道各地で取り組まれているバイオマス事業について紹介していただきました。興部町は漁業や林業も盛んであるためハイブリッドなバイオマス活用が効果的であるなどのお話をいただきました。

バイオガスを生かした地域づくり「バイオガスビレッジ構想」

平成18年～19年にかけて北海道開発局がおこなった畜産バイオマスからのガスの多目的な利用の研究成果と「地産地消エネルギー」の可能性についてお話をいただきました。

事例報告



環境施設編集長の篠田氏より日本全国のバイオガスプラントの課題について報告いただきました。ところによってはうまく動いていない場所もあるなど示唆に富んだお話をさせていただきました。

また興部町ですでにバイオガスプラントに取り組んでいる支倉牧場では順調に稼働し、特徴的なのはホタテのウロと一緒に醗酵させて重金属を取り除くなどの新技術を採用しています。NEDOの事業で行っており今後の発展が期待されます。

名寄農業高校「バイオマス高校生」による「バイオマス甲子園」

名寄農業高校の「循環班」ではバイオガスプラントを使ってすばらしい取り組みが行われています。



バイオガスの液肥の有用性について、無施肥区とバイオガス液肥区を設定して生育調査を行ったり、バイオガス液肥融雪効果を実証しています。さらに、バイオ液肥で育てた野菜などをエコバックに交換するなど地域還元する仕組み作りなど高度な取り組みも行っています。

パネルディスカッション

興部町ならではのバイオマス利用はどのような取り組みが必要かなどが提起されました。バイオガスを利用するためには施設だけではなく仕組みが重要であるため、ちょうどいい規模の町で日本に発信できるバイオマス利用のモデルを作りたいという議論になりました。

